

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース/町田 哲

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

私は、これまでの授業実践でも、知識の伝授だけではなく、歴史を考える視座の確立を目指してきた。しかし、とすれば、「具体的な素材」から歴史や時代の特徴を捉えようとする方向性がやや弱く、また学生が主体的に「考える」比重がやや小さかった。そこで、今年度は、初等中等教科教育実践Ⅱ(学部)や、教育実践フィールド研究(大学院)に担当教員として取り組みつつ、学校現場の実態をふまえながら、「教科専門」の授業でも、以下の3点を取り組みの目標としたい。

- ①授業内容…できるだけ「地域の具体的な歴史素材」をもとに、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点を培い、日本史の展開を「考える」授業内容を構築する。
- ②授業方法…歴史を「考える」素材を理解する力を身につけていく演習形式を重視する。
- ③成績評価…単に歴史的事象をどれだけ学び得たかという点だけでなく、その理解をいかに伝えることができるかという観点も組み込んだあり方を模索していく。

## 2. 点検・評価

- ①授業内容…すでに日本史学特論Ⅱなどで、「地域の具体的な歴史素材」をもとに、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点を培った。また、初等中等教科教育実践Ⅱ(学部)や、教育実践フィールド研究(大学院)等を含めた授業においては、専門性を活かしながら日本史の展開を「考える」授業内容を構築できるよう努力できた。
- ②授業方法…日本史学特論Ⅱでは、山口啓二『鎖国と開国』を中心に、歴史を「考える」素材を理解する力を身につけていく演習形式を重視した。また、③成績評価においても、レポートやレポート発表会等において、その理解をいかに伝えることができるかという観点も組み込んだあり方を模索し、実施することができた。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

- ①社会科教育で重要な、地域史の方法と実践について、理解を深められるよう授業を進める。具体的には、地域で誠実に生きる人々の営みが歴史を動かしていることへの理解が得られるよう努力する。
- ②担当講義(日本史)の充実を図る。その際、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点、この2つを養うようにする。
- ③学生の自主・自立を尊重しながら、学生の進路・悩み等の相談に随時応じる。

## 2. 点検・評価

- ①社会科教育で重要な、地域史の方法と実践について、理解を深められるよう授業を進めている。史学演習・史料講読・歴史学研究Ⅱ等で、地域で誠実に生きる人々の営みが歴史を動かしていることの理解が得られるよう、適切な素材を提供した。
- ②担当講義(日本史)の充実を図る。その際、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点、この2つを養うようにし、とりわけ、東アジアにおける近世日本の位置づけ等にも考慮しながら、充実させることができた。
- ③学生の自主・自立を尊重しながら、学生の進路・悩み等の相談に随時応じた。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

- ①昨年度採用された科学研究費補助金(若手研究B)「近世阿波における山村の地域特性に関する構造論的研究—生業・流通・社会構造—」(3年間)を継続し、その研究を推進する。
- ②昨年度に引き続いて徳島県から受託予定の、四国八十八カ所札所寺院の文化財詳細調査を進め、その歴史的解明を目指す。

## 2. 点検・評価

- ①昨年度採用された科学研究費補助金(若手研究B)「近世阿波における山村の地域特性に関する構造論的研究—生業・流通・社会構造—」(3年間)で、その研究を推進し、徳島地方史研究会やイエール大学での特別シンポジウムでも報告を果たした。
- ②昨年度に引き続いて徳島県から「世界に誇る四国遍路モデル事業」の寺院詳細調査の業務委託をうけ、その代表者として20番札所鶴林寺、21番札所太龍寺の調査研究業務を遂行した。とくに21番札所太龍寺については、来年度県が発行する調査報告書の原稿を仕上げ、地元での報告会なども果たし、地域歴史遺産の意義について、広く市民の理解が得られるように努力した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①社会系コース、人文・社会系教育部の一員として、所定の各種会議に参加し、職務を遂行する。
- ②創立30周年記刊行委員会委員(学長指名)として、刊行に向けて事業推進に努力する。
- ③5月末に本学で行われる第59回中国・四国地区大学教育研究会の実行プロジェクト担当として、その成功にむけて努力する。

## 2. 点検・評価

- ①社会系コース、人文・社会系教育部の一員として、情報環境推進委員会、FD・SD委員会に参加し、職務を遂行している。とりわけ後者では学部・大学院FD検討専門部会の主査として、業務の推進に努力した。
- ②創立30周年記刊行委員会委員(学長指名)として、刊行に向けて事業推進に努力し、その刊行に貢献できた。
- ③5月末に本学で行われた第59回中国・四国地区大学教育研究会の実行プロジェクト担当として、その成功にむけて努力した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①徳島県からの受託を予定している四国八十八カ所寺院の文化財詳細調査をすすめる、その史料的価値の証明を果たすことで、その成果を広く社会に還元していく。
- ②鳴門史学会等における研究活動を通じて、地域との人的、学術的な交流を図る。
- ③附属小中学校の実習・研究会等にできるだけ参加・支援する。

### 2. 点検・評価

- ①徳島県からの受託事業である四国八十八カ所寺院の文化財詳細調査(「世界に誇る四国遍路モデル事業」の寺院詳細調査)をすすめる、その史料的価値の証明を果たすことにむけて努力した。とくに21番札所太龍寺については、来年度県が発行する調査報告書の原稿を仕上げ、地元での報告会なども果たし、地域歴史遺産の意義について、広く市民の理解が得られるように努力した。
- ②鳴門史学会で「三好政権と勝瑞城」と題した研究大会を実施するなど、研究活動を通じて、地域との人的、学術的な交流を図ることができた。
- ③附属小中学校の実習はもちろん、教育実践フィールド研究でも適宜参加・支援を行った。ただし、附属小中の授業研究会には、日程の都合上参加できなかった。今後努力したい。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度も、徳島県からの受託事業として、四国八十八カ所寺院の文化財詳細調査(「世界に誇る四国遍路モデル事業」の寺院詳細調査)をすすめる、その史料的価値の証明を果たすことにむけて努力した。とくに21番札所太龍寺については、来年度県が発行する調査報告書の原稿を仕上げ、地元での報告会なども果たし、地域歴史遺産の意義について、広く市民の理解が得られるように努力した。こうして、本学がリードしている「四国遍路と地域文化」についての研究プロジェクトに主体的に参加し、本学がなすべき積極的な地域貢献の一つを担うことで、地域の要望に応えることができた。